

スマートディスプレイの
購入はコチラから



5インチIPS液晶スマートモニターのニューモデル登場

バイク業界はスマートモニター戦国時代に突入!?

CUSTOM JAPAN

スマートライドディスプレイ 5インチ

価格: 29,800円 (税込)

©カスタムジャパン <https://www.customjapan.jp/>

スマートディスプレイの
詳細が分かる
WEB記事はコチラ



タイヤ空気圧センサー

ドライブレコーダー

センサーには「F」リア側は「R」と表記されているので安心。



タイヤ空気圧センサーは標準装備されている車種はかなり限られるので、それが標準装備されているのは実に有難い限り。取り付けも簡単。これを装備しておけば空気圧を心配せずに走ることができる。

センサーは付属の工具で簡単に取り付け可能。



こちらはドラレコで撮影した映像。ナンバーまでくっきりと写っていた。

ドライブレコーダー用の前後カメラは標準で付属されている。装着は両面テープで貼り付ける台座が付属しているので、それに乗せてちょうど良い場所に設置すればOK。なお延長ケーブルが2本付属しているので車種問わず取り付け可能。



高画質の前後カメラを標準装備している。

今回紹介する「スマートライドディスプレイ 5インチ(以下、スマートライドディスプレイ)」は、数多くのバイクパーツを取り扱っているカスタムジャパンが、企画・開発・監修を全て行っており、「驚き価格で、安心品質」というコンセプトで登場した。しかも、低価格を実現するために、他社製品と比べて使える機能が限られていたり、何かを大幅に削ったりせず、あくまで必要なものは全て入っている、すなわち「全部入りで2万9800円」を実現していることがポイントなのだ。

スマートライドディスプレイの画面としては一般的な5インチを採用。液晶画面は視野角の広いIPS方式を採用し、バイクの乗車姿勢を問わずどんな角度から見やうと設計されている。スマートライドディスプレイはiPhoneの「CarPlay」それからAndroidの「AndroidAuto」の両方に対応しており、普段スマホで使っているナビアプリの使用や音楽の再生などが可能。近年「バイクの振動によるスマホカメラの故障」が懸念されているが、CarPlayとAndroidAutoの搭載によってスマホを「安全な場所にしまったまま」その機能だけをスマートライドディスプレイで使うことができるのだ。

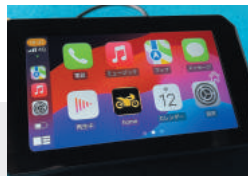
そして何と言ってもこのスマートライドディスプレイの凄いところは2万9800円ながら「前後ドライブレコーダー」を標準装備しているところ。高品質レンズを採用しフルHD画質で録画可能と、他社製の10万円前後のドライレコ付きスマートモニターと比べても遜色ないスペックを実現している。加えて、低価格なスマートモニターでは省かれる率の高い「タイヤ空気圧センサー」も標準装備となっている。

このようにまさに全部入りながら低価格を実現したスマートライドディスプレイ。これからの新スタンダードとなることは間違いなしだ!

本体、電源ケーブル、カメラx2、カメラ固定マウント、カメラケーブル、タイヤ空気圧センサー、本体取り付けマウント、工具や結束バンドが入っている。



AndroidAutoにも対応している。



今や主流になりつつあるCarPlayに対応。



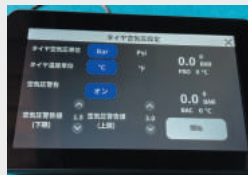
スマートライドディスプレイは従来のバッテリー給電に加えてUSB給電(USB Type-A)も使える。



粉塵が内部に侵入しない・あらゆる方向からの暴噴流に対して保護されているとされるIP66を取得している。強雨でも安心。



CarPlayでiPhoneの音楽を選ぶことも可能だ。



画面上で空気圧を把握できる。



ナビアプリで一番使われているGoogleMapを使用することも可能だ。